

放射線部で造影検査を受ける方へ(説明書)

1、なぜ、画像診断検査で、造影を注射するのか？

- ① 病気があるのか正常なのかをはっきりさせる
- ② どんな種類の病気なのかをはっきりさせる
- ③ 病気の広がりや進み具合をはっきりさせる

画像診断検査は①～③のような目的で行われますが、造影剤を用いた方が、病気がよりはっきりするので日常的に造影剤を使用しています。ただし、造影剤を使用せずに十分な診断ができる場合、あるいは造影剤の副作用が強く出る事が予想される方には造影剤は使用しません。

2、造影剤の副作用の種類と頻度は？

副作用の中で比較的多い症状は注射後の熱感、発疹、吐気、頭痛ですが、まれに重大な副作用（呼吸困難、血圧低下、ショック状態等）が起きる事があります。重い副作用の発現率はCT検査（ヨード造影剤使用）の場合、2500人に1人、MRI検査の場合は1万人に1人（胆嚢造影では500人に1人）です。副作用が起きた場合は、速やかに対処できるよう準備を整えております。

症状が出る時期は注射した後すぐ起きる場合（即時性）と、まれに検査終了後1時間から数日後に生じる場合（遅発性）があります。

3、どのような場合に造影剤の副作用が出やすいのか？

重大な副作用を起こす特異体質の患者さんを、前もって知る良い方法は今のところありません。ただし、以前の薬の内服や注射（造影剤も含む）、食べ物などで蕁麻疹が出たり気分が悪くなった事がある方や、喘息のある方は副作用が出やすい事が知られています。

連絡先：福岡山王病院 放射線科 092-832-1100 (代)